

『女性部長の割合は6.6% 雇用均等基本調査結果公表』

厚生労働省は「平成29年度雇用均等基本調査(確報版)」を公表した。この調査は男女の均等な取扱いや仕事と家庭の両立などに関する雇用管理の実態把握を目的に実施されている。

正社員・正職員に占める女性の割合は24.9%(対前年度比0.1%増)となった。職種別に見ると、総合職18.5%、限定総合職36.7%、一般職30.7%、その他28.6%となる。限定総合職は対前年度比5.2%増と大きく増えた。

課長相当職以上の女性管理職(役員を含む。以下同じ)を有する企業割合は54.1%(同3.2%減)で、係長相当職以上だと60.6%(同4.2%減)となり、いずれも前年度より減少する結果となった。管理職に占める女性の割合は課長相当職以上で11.5%(同0.6%減)となった。役職別にみると、部長相当職では6.6%(同0.1%増)、課長相当職では9.3%(同0.4%増)、係長相当職では15.2%(同0.5%増)となっており、いずれも上昇している。経済界全体としては女性管理職の割合が伸び悩んでいるのに対し、実際に女性管理職を登用している企業においてはその数が増えていることになる。なお、企業規模が大きくなるほど女性管理職割合は低下する。



『社長の出身大学、日大が最多 上場企業では慶大がトップ』

帝国データバンクは「2018年の全国社長の出身大学分析」結果をまとめた。それによると、社長の出身大学上位30校では、日大が2万148人で最も多かった。以下、慶大(1万903人)、早大(1万283人)、明大(8894人)、中大(7709人)などが続いている。国立大では東大(2579人)は20位、京大(1820人)は29位だった。同社は6月時点の企業概要データベースから企業の社長出身大学データを抽出、27万4570人の出身大学をランキング形式で集計した。

上場企業社長の出身大学では、慶大が260人でトップ。これに続くのは東大と早大で、同数の172人だった。以下、日大(81人)、京大(79人)、明大(73人)、中大(68人)、同志社大(54人)などが続いている。国立大では、上位30校の中には一橋大(47人)、大阪大(47人)、神戸大(29人)なども入っている。社長の出身大学を年商規模別に見ると、「10億円未満」と「10億~50億円未満」では日大が最多。年商50億円以上ではすべてで慶大がトップだった。社長の出身大学を男女別に見ると、男性社長では日大が最も多く、慶大、早大、明大が続いている。女性社長では、慶大がトップ。以下、日大、早大、青山学院大などの順。

出典元:日本中小企業経営支援専門家協会(JPBM) ※本記事・内容の無断転載を禁じます



21世紀を創造する中小企業のベストパートナー

葵総合経営センター

〒460-0012 名古屋市中区千代田三丁目14番22号

(葵総合税理士法人)

TEL : (052) 331-1768 FAX : (052) 332-5282

『Homepage』 <http://www.aoi-cms.com/> 『e-mail』 aoi@aoi-cms.com